

意見交換会実施報告書

日 時	令和 8 年 5 月 2 3 日 1 0 時 1 5 分から 1 2 時 0 0 分まで	
会 場	市役所本庁舎 6 階 全員協議会室	
出席議員	岸議長、早川副議長、岡崎広報広聴委員会委員長、吉川副委員長、杉本議員、花田議員、藤村議員、清野議員、新倉議員 滝口議員、山崎議員、阿部議員、長谷川議員、加藤議員、伊藤議員	
参加人数	11名	
経過記録	開 会	10時 15分
	議 長 挨 拶	10時 15分～ 10時 17分
	進 行 説 明	10時 17分～ 10時 20分
	自 己 紹 介	10時 20分～ 10時 23分
	意 見 交 換 ①	10時 23分～ 10時 50分
	席 替 え	10時 50分～ 10時 52分
	自 己 紹 介	10時 52分～ 10時 55分
	意 見 交 換 ②	10時 55分～ 11時 22分
	発 表	11時 22分～ 11時 37分
	参 加 者 感 想	11時 37分～ 11時 52分
	総 括	11時 52分～ 11時 55分
	アンケート記入	11時 55分～ 12時 00分
	閉 会	12時 00分
テ ー マ	【議員と話そう、茅ヶ崎のこと！！～茅ヶ崎の今とこれから～】 詳細なテーマについては、各テーブルにて話の上、決定。	
概 要	・ 第1回の参加者は11名で当日欠席等はなかった。	
	・ 当日参加者は1名。	
	・ 30代から80代までの参加者層で、60代・70代が多く参加した。	
	・ テーマ設定は各テーブルで話し合い決定、前半及び後半ともに参加者が分散して着席し、各テーブルで闊達な意見交換が行われた。	
主な意見	別紙 1 から 5 のとおり	
令和8年6月24日 茅ヶ崎市議会議長 岸 正明 様 上記報告書のとおり開催しましたので報告します。 広報広聴委員会委員長 岡崎 進		

意見交換会における主な意見

(別紙1)

日 時	令和8年5月23日 10時15分から12時00分まで
担 当	Aグループ 進行：新倉 真二 書記：花田 慎
主な意見	自由記述
	【前半の部 参加者3名】 ○議会の傍聴に来ているが、モニターの精度が悪いため意味が分からないことが多くあるので改善して欲しい。 ○同時入力者を活用すれば精度が上がると思う。 ○議会開催の Spann が長い。もっと頻繁に議会を開催して欲しい。 ○市役所北側正面玄関前の障がい者用駐車スペースに健常者が駐車している件、対策して欲しい。 ○神奈川県では不正利用を防ぐために認証制度を作っている。茅ヶ崎市としても県に倣って実施して欲しい。最低でもコーンを置くなどの配慮するべき。 ○同じく市役所北側ロータリーに飲料製品業者トラックが停まっているがそこに駐車するべきではないと思う。 ○福祉施設で働いているがボランティアや有資格者の活用についてもっと進めて欲しい。 ○初参加したが、このような機会なのでもっと議員と話をしたり、議員の話を聞きたかった。 ○神奈川県内では茅ヶ崎市が一番市民の話を聞くまちだとニュースで見た。 【後半の部 参加者2名】 ○円蔵から萩園まで散歩しているが浜園橋の歩道が広くなったのは嬉しい。川の護岸工事についてももっと説明して欲しい。 ○映画が好きでよく観に行くが邦楽映画には字幕がないため内容が分からない。茅ヶ崎市としても合理的配慮の観点から考えて欲しい。大学等と連携すれば可能性を見出せるのではないかな？ ○茅ヶ崎海岸グランドプランB地区のセーフティネットを拡充して欲しい。（宿泊施設に対する津波被害防止策を考えて欲しい） ○茅ヶ崎海岸グランドプラン4,900㎡予定公物をドライブインシアターでサザン記念イベントで盛り上げて欲しい。 ○サザンライブで野球場を使用する時は駅前が混雑するので平塚、藤沢からの臨時バスを走らせて欲しい。（134号線を通行） ○産前産後ヘルパー事業を拡充させて欲しい。

意見交換会における主な意見

(別紙2)

日 時	令和8年5月23日 10時15分から12時00分まで
担 当	Bグループ 進行：加藤 大嗣 書記：清野 匡志
主な意見	自由記述
	【経済】 北茅ヶ崎駅周辺の整備について：進捗状況を知りたい 旧給食センターと保健所の移転後の計画について 友好都市ホノルルとの交流について 【環境】 ごみの有料化について：ごみ袋の値段をもう少し安くしてほしい 携帯の基地局について：電磁波による健康被害 【観光】 道の駅に着いて：国道134号線の渋滞解消 海岸のサイクリングロードについて： 風が強いと砂が飛散して歩行しづらい。 防砂柵の設置・堆積した砂の除去 海岸について：トイレが少ない 公園整備について 西浜駐車場と隣接する旧県有地の活用について 【防災】 防災について 【議会】 議会の仕組みを変える。

意見交換会における主な意見

(別紙3)

日 時	令和8年5月23日 10時15分から12時00分まで
担 当	Cグループ 進行：阿部 英光 書記：杉本 啓子
主な意見	自由記述
	1 子育て支援について (1) ありがとう加算 ・職員に欠員が生じた際に、他の職員がカバーするのは「ありがとう加算」なくても当たり前のこと。 - 加算分は別枠の配分になるので、かえって残業が増える＝残業代増加のデメリットになるのではないかな？ (2) 子育て支援に投入する予算の配分が公平なのか ・子どもを産みたくても産めない、結婚を望まない、独身者など、子どもを授かる以前への補助も必要ははず ・全体的な視点での配分、全世代にメリットになるお金の使い方をしてほしい。(例えば、道路をバリアフリーにすることは、高齢者にも子どもにも障がい者も含めてメリットになる。) 合理的配慮も含めた、普遍的な使い方を望む ・そのためにはタテ割りの政策ではなく、横につながる横グシ連携で考えることが必要 2 友好都市との交流について ・市民間の交流は増やしてほしい(ただし、ホノルルは除く) - 文化・スポーツを通じた交流 ・佐久市の農産物など給食への食材の利用 その他、空き家対策 地価が高騰してるので、空き家の賃貸料も高くなる 茅ヶ崎市は移住に需要があるので、空き家にならずに売れる (他市と比べ空き家は比較的少ない)

意見交換会における主な意見

(別紙4)

日 時	令和8年5月23日 10時15分から12時00分まで
担 当	Dグループ 進行：滝口 友美 書記：長谷川 由美
主な意見	自由記述
	それぞれから出された意見は、多岐の分野にわたるものの、現代社会における「つながり」の希薄さと、それを補完するための方法に話が進んでいった。 1. 「居場所」と「つながり」のあり方について 行政の枠組みとは異なる、地域における独自のつながりや居場所（サードプレイス）の重要性 近所付き合いと気軽なつながり：「近所付き合い」「地域でなにかつながりができる」「たまたま居合わせるが毎度つながって（いる）などの状態」といった、緩やかで自然な関係性の構築が求められている。 個別課題として「障害者の親：世代間で差、情報が伝わらないか?」「男性の孤独死、つながりのなさ・孤立」など、特定の層が抱える孤立問題への懸念も示された。 2. 情報発信・周知の課題と工夫 では、情報をどのように届けられるのかについて 「どうしたら届く」「興味のないことをどう伝える」という、情報が届きにくい層へのアプローチが大きな課題。 広報の強化：「広報紙」「広報を広めてほしい」など、既存メディアの活用。 口コミの重要性：「口コミ大事」「御用聞きフォーラム、口コミ」といった、人づての情報伝達が有効。 プッシュ型・デジタル活用：「個別PUSH型で情報を」「SNS、掲示板、地域誌」などイベント情報などを届けるための多様なチャネルの活用が挙げられた。 機会の創出：「茅ヶ崎には開かれたフレンドリーな雰囲気があるので、気楽に来てもらおうとよい」「イベントや発表の場で呼び込み」「キャンプ場などのイベントで会うとか」など、参加のハードルを下げる工夫が提案された。 3. 子育て・社会的養護・地域の相互扶助（助け合い） 「社会的養護が必要な子ども」や、地域全体での子育て支援について フレンドホーム制度の周知と担い手育成：「単発ではない、継続して社会的養護が必要な子ども」「『フレンドホーム』広めてほしい」とし、それに伴い「ひきうけ手を増やしたい」というニーズが紹介された。 既存制度の延長・活用：「大綱の例、整備」「ファミリーサポートの延長ででき

る」といった、制度面の拡充。

地域・自治体の役割と「近所で助け合い」：「村のしくみを否定、近所で助け合い」「個人・個別を雇用する場合、自治体がすべて担うよりサポートするのが良い」

まとめ（総括）

全体として、「制度や行政だけに頼るのではなく、地域資源（イベント、道の駅、アニメ文化など）や人のつながり（口コミ、近所付き合い）を活かして、いかに自然な居場所や支援の輪を広げていくか」、そして「届きにくい情報をいかに個別・多様な方法で届けるか」という点で意見交換がなされた。

意見交換会における主な意見

(別紙5)

日 時	令和8年5月23日 10時15分から12時00分まで
担 当	Eグループ 進行：伊藤 素明 書記：藤村 優佳理
主な意見	自由記述
	Eグループでは、茅ヶ崎市がこれからも元気なまちであり続けるために必要なことについて意見交換を行った。
	主な意見として、元気なまちとそうでないまちの違いには、財政の豊かさや働く人の多さが関係しているのではないかという話があった。財政を安定させるためには、働く人を増やし、働き続けられる環境を整えることが大切である。
	子育て支援については、藤沢市など近隣自治体と比べて茅ヶ崎市との差を感じるという意見があった。一方で、自治体ごとに規模や財政状況、重点施策の違いがあるため、茅ヶ崎市として何を優先するのかを考える必要があるという話になった。
	また、子育て世帯が働き続けるためには、子どもを安心して預けられる環境が重要であるという意見が出た。小学校入学後の放課後の預け先や、ファミリーサポートの使いやすさなどは、今後も課題である。
	高齢化については、医療費や介護費の増加を抑えるためにも、フレイル予防などを通じて高齢者が健康で元気に暮らし続けることが大切であるという意見があった。健康であれば、働くことや地域活動への参加にもつながり、地域の活力にもなる。
	介護人材の確保については、資格取得支援や講座を行うだけでなく、実際の就職や定着につながる仕組みになっているかを確認する必要があるという話し合いになった。

意見交換会実施報告書		
日 時	令和8年5月23日 14時00分から15時45分まで	
会 場	市役所本庁舎6階 全員協議会室	
出席議員	岸議長、早川副議長、岡崎広報広聴委員会委員長、吉川副委員長、山口議員、金田議員、今井議員、金子議員、水本議員 藤本議員、木山議員、水島議員、菊池議員、柁木議員	
参加人数	9名	
経過記録	開 会	14時 00分
	議 長 挨 拶	14時 00分～ 14時 02分
	進 行 説 明	14時 02分～ 14時 05分
	自 己 紹 介	14時 05分～ 14時 08分
	意 見 交 換 ①	14時 08分～ 14時 35分
	席 替 え	14時 35分～ 14時 37分
	自 己 紹 介	14時 37分～ 14時 40分
	意 見 交 換 ②	14時 40分～ 15時 07分
	発 表	15時 07分～ 15時 22分
	参 加 者 感 想	15時 22分～ 15時 37分
	総 括	14時 37分～ 14時 40分
	アンケート記入	14時 40分～ 14時 45分
	閉 会	14時 45分
テ ー マ	【議員と話そう、茅ヶ崎のこと！！～茅ヶ崎の今とこれから～】 詳細なテーマについては、各テーブルにて話の上、決定。	
概 要	・ 第2回の参加者は10名で当日欠席等はなかった。	
	・ 当日参加者は2名。	
	・ 10代から60代までの参加者層で、高校生が1名参加。	
	・ テーマ設定は各テーブルで話し合い決定、前半及び後半ともに参加者が分散	
	して着席し、各テーブルで闊達な意見交換が行われた。	
主な意見	別紙1から5のとおり	
令和8年6月24日 茅ヶ崎市議会議長 岸 正明 様 上記報告書のとおりに開催しましたので報告します。 広報広聴委員会委員長 岡崎 進		

意見交換会における主な意見

(別紙6)

日 時	令和8年5月23日 14時00分から15時45分まで
担 当	Aグループ 進行：藤本 恵祐 書記：金子 遥
主な意見	自由記述
	前半： 議員と交流できる場の創出について ・議員との距離感を感じる ・議員と気軽に話せる場が欲しい ・議員会館のようなものがあると気軽に話に行けるのではないかな ・議員の定数を増やしてみるのはいかがでしょうか ゴミの戸別収集について ・戸別収集自体は非常に良いがゴミの有無で留守がわかってしまい防犯上の問題が出る ・戸別かステーション回収か選べた方が良いのではないかな ・戸別だとパッカー車が細い道へ入るので一時的に道路が不便になる ・店舗兼住宅のごみ回収の際に袋の選択を間違えている 後半： 公共交通が少なく感じるので自動運転も含めた公共交通機関の導入をしてほしい ・防災リーダーの高齢化問題 ・地域全体として防災意識が低下しているように感じる ・津波などの災害も怖いため啓発運動をしてほしい ・中高生が勉強できる施設を増やしてほしい ・左の意見に対し、大和市にあるシリウスのような施設は大変需要があるように思う ・公園が少ない(特に球技ができる公園が少ないため不便に感じる) ・ずっと茅ヶ崎に住み続けたいが企業数が少ないため労働の場が足りていない ・若年層の政治離れが深刻になっているように感じる

意見交換会における主な意見

(別紙7)

日 時	令和8年5月23日 14時00分から15時45分まで
担 当	Bグループ 進行：木山 耕治 書記：金田 俊信
主な意見	自由記述
	【まちの魅力・観光・経済関係】 ■えぼし岩を活用した教育プログラムの充実や観光客の誘引を図ってほしい。 ■茅ヶ崎市立博物館のさらなる教育的活用を進め、シビックプライドの醸成につなげてほしい。 →茅ヶ崎のルーツを知ることができる施設があることは市民にとって非常に恵まれている。 →博物館の活用方法を工夫することで、子どもたちの郷土愛育成に役立てられるのではないかな。 ■ナイトエコノミー（夜の時間帯の経済活性化）への対策が重要ではないかな。 →飲食店は多いが、それ以外のイベント・コンテンツが不足している。 →昼間は横浜・東京へ通勤し、夜はそのまま帰宅するだけという市民が多いのでは。 →茅ヶ崎に「帰ってきたくなる夜」をつくることで、地域経済の活性化につながるのではないかな。 ■道の駅については、新湘南バイパス・圏央道・西湘バイパス・国道134号線からのアクセスが抜群で、非常に賑わっており、成功事例として評価できる。 ■茅ヶ崎市内には美味しいラーメン店が多い。チェーン店が少なく、個性的な個人店が集積しており非常に魅力的である。これを観光資源として活用することも一案ではないかな。 【道路・交通関係】 ■駅周辺、ラチエン通りなどの道路が狭く、車のすれ違いも困難な状況である。 →車椅子使用者など交通弱者にとっては特に深刻な問題である。 →道路拡幅はすぐに実現できないとしても、一方通行化など現実的な対策を検討できないかな。 →反対意見があるとしても、その合意形成を図ることこそが議員・行政の役割ではないかな。 【防災・地域コミュニティ関係】 ■移住者が増加している。駅前マンションが増え、顔の見えない関係が広がっている。 →自治会に加入しない住民が増加しており、いざという時の共助体制に課題がある。 →防災の観点から、マンション住民を含む地域コミュニティの形成が急務である。

意見交換会における主な意見

(別紙8)

日 時	令和8年5月23日 14時00分から15時45分まで
担 当	Cグループ 進行：榎木 太郎 書記：山口 順平
主な意見	自由記述
	■1回目 主なテーマ：茅ヶ崎の魅力とは何か ・今の茅ヶ崎について思うこと Aさん 南側は栄えているが、市全体がバランスよく発展してほしい 辻堂よりマンションが少なくて住みやすいイメージがある 朝海に散歩に行くことがよくある Bさん 自転車が多くて道が狭い。夜のエンタメ場所が少ない 森林環境譲与税は国で用途が決められている中でどう運用さるべきか 自然を活用した教育が盛んになると言いと思う ・全員で議論したこと 海の家が夜時間も開催されることになりまちの賑わいにつながることに期待したい しらすやはまぐりを活用したPRや企業誘致にもつながるといいと思う 茅ヶ崎に住み続けたいと思うには、やはり地元愛を高めることが大切 ■2回目 主なテーマ：シニアの活躍の場、こどもの居場所づくりについて ・今の茅ヶ崎について思うこと Cさん 定年を機に茅ヶ崎に引っ越してきて、何か役に立ちたいので情報公開を希望する 海岸侵食対策として市民に出来ることは？市として海岸をどうしたいか 退職後のシニアがどうやって活躍の場を見つけていくのがいいのか Dさん 不登校のこどもや親の居場所づくりは補助金をもらおうとハードルが高くなる!? 無理なく小さく始めるために、幅広く多様な環境があることを受け入れてほしい 社会教育や生涯学習として公民館等での支え合い活動としてできると嬉しい ・全員で議論したこと 市のボランティア大学で既に活動されていることが素晴らしいと思う 不登校の状況は千差万別なので、多様な環境があるべきことの理解を広めたい

意見交換会における主な意見

(別紙9)

日 時	令和8年5月23日 14時00分から15時45分まで
担 当	Dグループ 進行：水本 定弘 書記：今井 理華
主な意見	自由記述
	【福祉について】 ・属性で区切らず、生まれる前から亡くなるまで切れ目ない支援をしてほしい。 ・大人への支援に注力してほしい。 理由：子育てと介護が同時期に重なるから。「高齢者」「子ども」と窓口は別々だけど同一家庭で起きていることだから。 ・「しんどい」と言える文化を醸成してほしい。 理由：支援につながるためには人を頼る、弱音を吐ける人間関係（人との交流）が必要だから。どうしても他者からの評価を意識してしまい、それによって自分の優劣を決めてしまいがちなので弱みを見せられない。 ・世代や属性を超えたつながりが必要。SNSなどでは似た者同士でかたまりやすい。違いがあると遠ざけがちで対話より分断になってしまう。これはリアル（地域）でも同じで、「隣の人は何をしてるか知らない」状態になってる。 ・声を上げられる人の声だけしか行政に届いていない。本当に弱っている人は声を上げられないから取り残される。 ・「子ども真ん中」というけれど、その子を支える大人にも目を向けてほしい。 理由1：大人が「そのままでもいいよ」と言っても、当の大人がそう思っていないなら子どもは「そのままでもいい」と受け取らない。だから「しんどい」と言える文化が必要で、子どもに言う「そのままでもいいよ」を大人も本気でそう思えるために大人への支援も必要。 理由2：大人が忙しいと子どもは「助けて」を発せなくなるから、大人の「余裕」を作るために支援が必要。 理由3：本人だけでなく家族も助けないと子どもは助からないから。
	【自転車について】 ・マナーの悪い人が多い。交通安全教室をもっと拡充してほしい。 ・茅ヶ崎市は道が狭い。どうにかしてほしい。
	【部活動について】 ・教職員の働き方改革で地域移行の方向になっている。市民で手伝ってくれる方（経験者、アマチュアアスリート等）の活用はどうだろうか？ ・全校にバラエティ豊かな部活を用意しなくてもよいのではないかと？ 「A校には卓球部があってB校には無い」でもよいのでは？ ・地域に開かれた学校を目指す教職員の過重負担にならないだろうか？ 部活は教職員の業務から外せばよいのでは？ 市民のサークル（団体）を活用すればよい

と思う。

【地域について】

- ・ 神社があるとお祭りやイベントで住民の交流ができるから、空き家を神社にするのはどうだろうか？
- ・ 神輿は経済効果もあるので、神社の無いエリアの空き家は神社に変えると良いと思う。

【観光、地域活性について】

- ・ 観光資源はたくさんあるのに活用しきれてない。
- ・ 道の駅で食材を購入して、バーベキューができる公園などに誘導できるといい。
- ・ 農業＋遺跡発掘で人を呼び込めるかもしれない。
- ・ 都心にも箱根にも1時間という立地を生かして学校を誘致するのもよいのでは？

意見交換会における主な意見

(別紙10)

日 時	令和8年5月23日 14時00分から15時45分まで
担 当	Eグループ 進行：水島 誠司 書記：菊池 雅介
主な意見	自由記述
	・市外から茅ヶ崎市を見ると海的环境についての情報発信が足りないように感じる。 ・道の駅について、内外の反応が気になる。 ・市博物館の運営に外部の力を活用できないか（例えば博物館内でプレントイズのアイスなどを販売できないか） ・公立小中学校の子どもたちへの学習に博物館の更なる活用をしてはどうか。 ・クリエイターシティ・チガサキの今後の方向性について興味がある。 ・クリエイターシティチガサキとは？ ・烏帽子岩を大人・子どもへの生涯教育に活用できないか。 ・山、河、海の更なる活用をしたらどうか。 ・茅ヶ崎のブランドを今後、どのように活用していけば良いか（自然を活かしながら） ・茅ヶ崎に縁する著名人、有名人の活用はいかがか。 ・寒川町との関係（合併も含めて）の今後は？ ・市内にタワマンは建設されるのか。 ・旧給食調理場の今後はどうなるのか（保健所とのつながりを含めて） ・インクルーシブ公園について知りたい。 ・サザンオールスターズの市に対しての影響を知りたい。 ・人口増には子ども目線でのアプローチが必要だと考える（こどもが住みたいと思える観点） ・佐久市との交流（バルーンフェスティバル等）の今後に期待したい。 ・市のホームページが見やすくなった。 ・高齢者への施策の拡充（例えば、免許返納がし易い公共交通の更なる整備など） ・自動運転バスへの期待と不安がある。 ・新年度に導入された自転車に対する法改正について現状と影響を知りたい。 ・茅ヶ崎を自転車特区にしたらどうか。 ・アロハトークは話しやすい（出た意見の活用期待する）